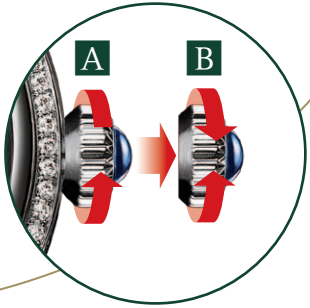
INSTRUCTIONS FOR USE
MODE D'EMPLOI

MILLENARY

CALIBRE 5201
HAND-WOUND

AUDEMARS PIGUET
Le Brassus

1
2
3


A
B

日本語

日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています。

読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス «日本語» をクリックしてください。

保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記されています。

目次

イントロダクション 118ページ
- オーデマ ピゲのマニュファクチュール

時計について 122ページ
- キャリバー5201

この時計について 124ページ
- ムーブメント
- ムーブメントの仕様
- 特徴

機能の使い方 126ページ
- 時計の表示と機能
- 時刻合わせ
- ムーブメントの巻き上げ

イントロダクション

オーデマ ピゲの マニュファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷

ジュネーブの約50 km北、スイス･ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は18世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンビェと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の1881年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌したのです。

偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール=ルイ・オーデマとエドワール=オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーブに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892 年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、「伝統と革新」を追及しつつ、ハイエンドウオッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。

国際的な成功を収めたオーデマ ピゲ は、1972年にステンレススティールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウオッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル オークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテイストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション、トラディション オブ エクセレンスを発表します。オーデマ ピゲはこのシリーズの一環として、オーバルケースデザインのミレネリーのトラディション オブ エクセレンスNo.5を発表しました。 この時計には、パワーリザーブ・インジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせずに革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。

時計について
キャリバー5201

オーデマ ピゲのキャリバー5201は、スモールセコンドを搭載した手巻ムーブメントで、最高レベルの機能性、時計としての技術の高さとデザインの美しさを完璧に融合させています。

伝統と革新

マニュファクチュールであるオーデマ ピゲ社は、創業以来つねに自主性を守り抜こうと努力してきました。だからこそオーデマ ピゲはムーブメントの自社製作にこだわり、オーデマ ピゲ特製キャリバーを開発したのです。それらの時計には、バランスよく配置されたブリッジ、手作業による仕上げ、構成部品の装飾などの中にあって、ひときわ目立つAPのサインが刻まれています。均整の取れたエレガントなデザインは、サイドに横たわるように配置されたテンプ受けによってさらに魅力的なものとなっています。

キャリバー5201で実現した革新は、特に時計の心臓部を覗くことができる、その立体構造です。通常はケースバックに隠れている調速機構（テンプ、アンクル、脱進機）が表から見えるようになっています。このように、ムーブメントの構造や機能面に属する要素が時計としての美しさに大きく貢献しています。

この時計について

ムーブメント

キャリバー 5201

ケースバック

ダイヤル側

ムーブメントの仕様

ムーブメントの厚さ: 4.16 ミリ

寸法: 28.59 x 32.74 ミリ

振動数: 3 Hz (21,600 振動／時)

石数: 19

パワーリザーブ (最低) : 49 時間

手巻き

変動慣性マスロット使用テンプ

平面スパイラル

ネジ付可動ピトン留め

部品数: 157

特徴

オーバル型ムーブメント

立体構造のムーブメント

ダイヤル側で稼働状態が見えるテンプ

左側に配置されたスイス式アンクル脱進機

機能の使い方

時計の表示と機能

(図を参照)

1. 時針
2. 分針
3. スモールセコンドの針

この時計は2つのポジションを有するリューズを備えています。

A 位置 巻き上げ

B 位置 時間合わせ

機能の使い方

時刻合わせ

リューズをポジション B に引き出します。時刻合わせをする時はリューズを前後に回すことができます。

時間調整時には設定希望時刻より5分進めてから希望時刻に戻すことをお勧めします。歯車のかみあいが正確になり精度がより高くなります。

ムーブメントの巻き上げ

この時計は手巻き式ムーブメントを備えています。

毎日同じ時刻に時計を完全に巻き上げることをお勧めします（リューズは位置 A で）。最後まで巻き上がったらそれ以上無理に巻かないよう、ご注意ください。